



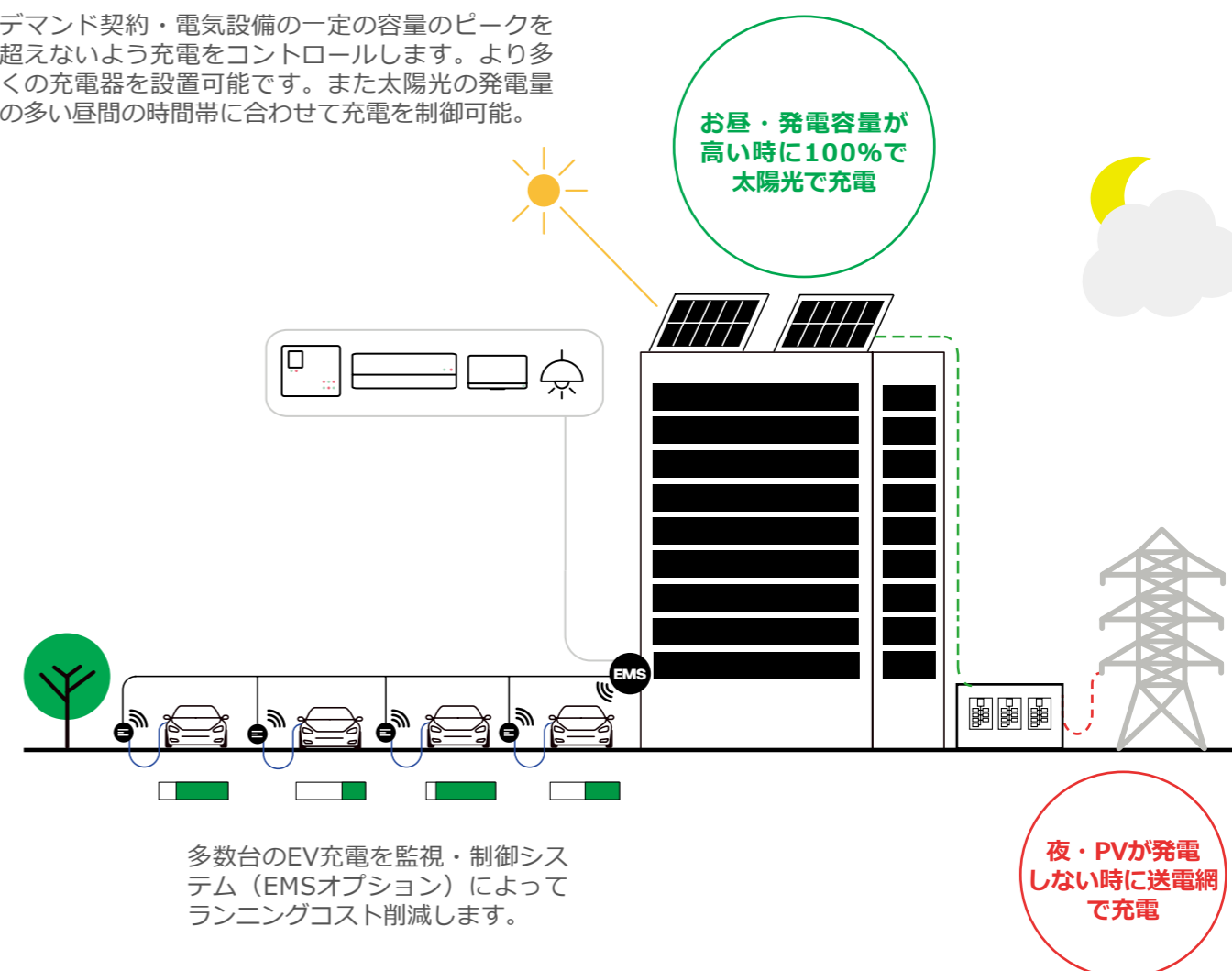
職場や 駐車場で の充電

職場や駐車場で充電（EMSオプション）

QRコードをスキャンしてこのソリューションの詳細情報をご覧ください。



デマンド契約・電気設備の一定の容量のピークを超えないよう充電をコントロールします。より多くの充電器を設置可能です。また太陽光の発電量の多い昼間の時間帯に合わせて充電を制御可能。



企業では複数台のEVを同時に充電すると契約電力量を超える恐れがあります。電気料金だけでなく、キュービクルなど電気設備の新設も必要になる可能性があり、この課題を解決する為、EVOSの充電器に組み合わせるエネルギーマネジメントシステム「EVOS EMS」を提供します。

建物・オフィス・施設等の電気消費量に対して、EV車の充電量をリアルタイムで制御します。電力需要の多い時間帯での充電量を抑え、電気料金の安い夜間や太陽光発電に合わせて充電量を増やします。EVOS EMSは運用コストが低く、電気設備（キュービクル、電気盤等）の拡大をすることなく、充電容量を増やすこともできます。

電力の使用状況をグラフなどで分かりやすくリアルタイムで表示でき、どんな充電器がどのくらいの電気を使用しているかを把握できます。建物・オフィス・施設等の電気消費量を優先しながら、車両用充電容量をコントロールできるため、施設全体を同じクラウドで管理が可能になります。

自宅で社用車の充電

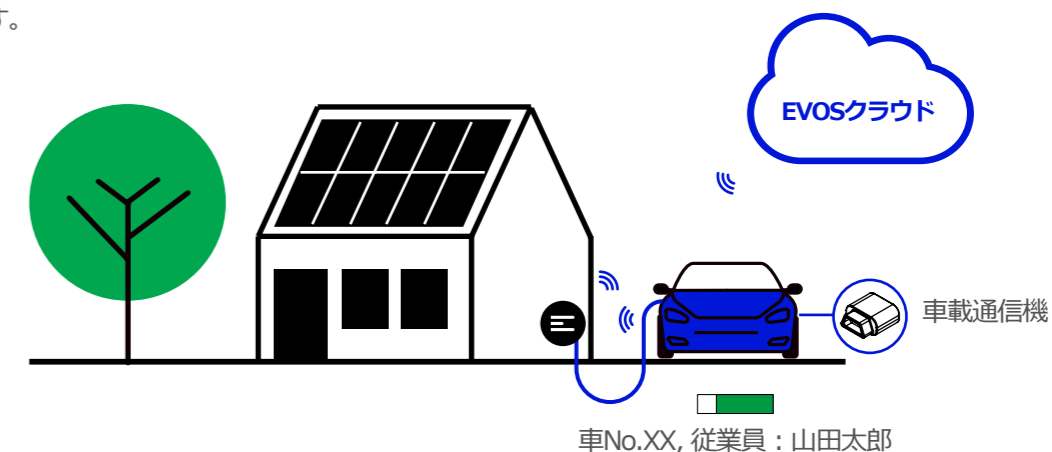


自宅で社用車の充電 (VIDオプション)

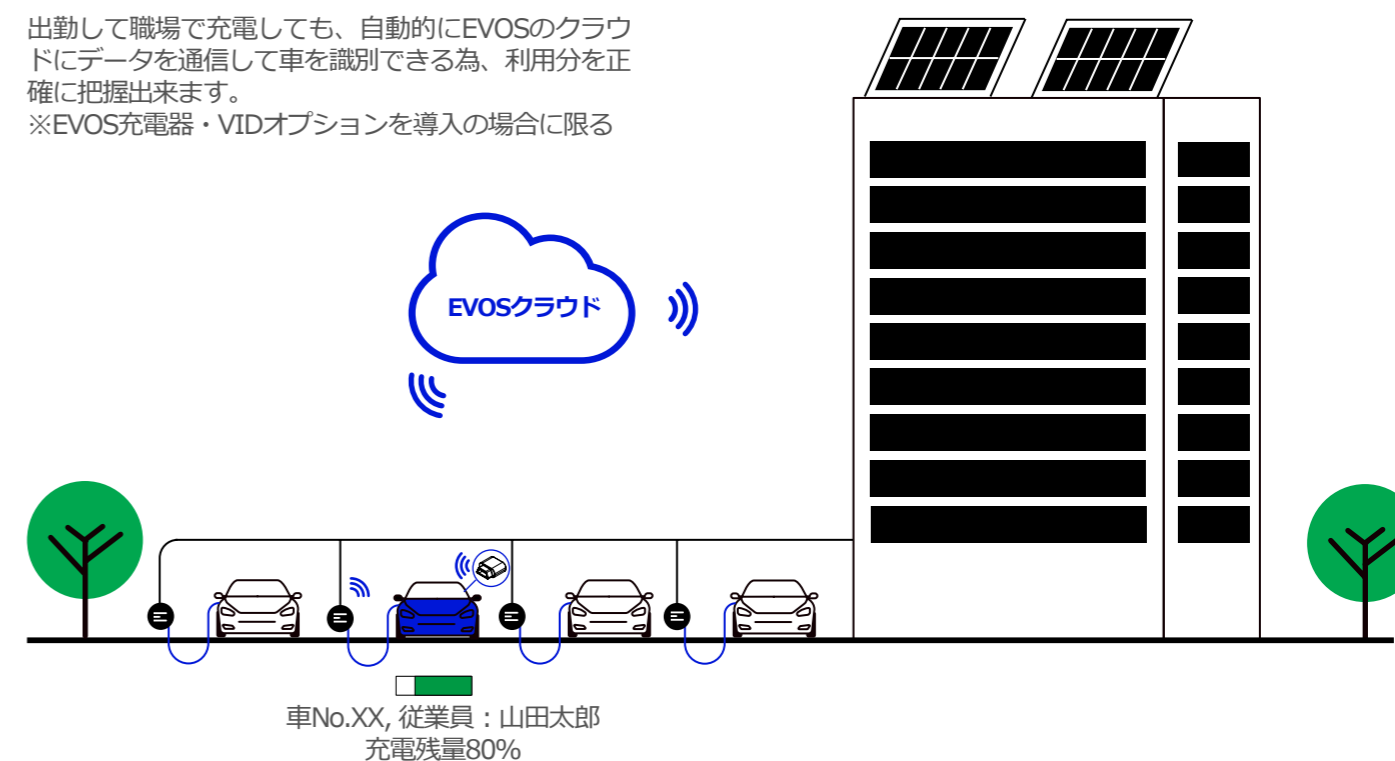
QRコードをスキャンしてこのソリューションの詳細情報をご覧ください。



自宅で社用車を充電すれば、VID車載通信機オプションを使えば車両が自動的に識別され、EVOSのクラウドへ通信し、自動的に充電のデータを会社へ送信できます。



出勤して職場で充電しても、自動的にEVOSのクラウドにデータを通信して車を識別できる為、利用分を正確に把握出来ます。
※EVOS充電器・VIDオプションを導入の場合に限る



電気自動車の充電の80%は職場や自宅で普通充電器にて行われています。今後、EV車が普及することで、従業員がEVの社用車を利用するようになり、自宅での充電に対する充電経費精算の課題が浮上しています。この消費量を正確に把握するために、EVOSは法人に対し、充電の自動認識システム (EVOS VID車載通信機) を提供しています。

EVOS VID (車両⇔充電器の通信機) を使用すれば、車両やユーザーを識別するためのIDやRFIDカード、APPが不要になり、自宅や職場の充電状況を監視できます。従業員ごとに実施すべき全ての充電経費精算を一元管理し、支払いのための情報を管理部門に伝えることが出来ます。リアルタイムかつ正確な費用管理と社用車の利用者 (従業員) に最大の柔軟性を提供します。